

教育研究業績書

2018年05月14日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：松井 菜摘

研究分野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学	乳幼児を持つ父母のしつけの認識と実際、母子保健分野に関する研究
学位	最終学歴
修士（看護学）	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 幼児後期の子どもを持つ両親における養育スタイルとしつけ（修士論文）	単	2011年3月	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻	地域で生活する幼児後期の子どもを持つ親を対象に質問紙調査を行い、両親の養育態度やしつけへの関わりの実態と関連、またそれらに影響を与える背景要因について分析した。子どもの数やその年齢、母の養育態度により父の育児参加が異なること、親自身の被養育体験が現在のしつけに影響を与えること、さらに父母の育児に対する考え方や行動はお互いに影響を及ぼしあっている可能性が示唆された。
3 学術論文				
1. 幼児後期の子どもを持つ父母におけるしつけへの実際の関わり（査読付き）	共	2012年3月	第42回日本看護学会論文集 地域看護、P.96-99	幼児後期の子どもを持つ親のしつけに対する実際の関わりと、その属性および相談状況による違いを明らかにするため、地域で生活する幼児後期の子どもを持つ親を対象として質問紙調査を行った。しつけへの実際の関わりは「決まりを守ること」「人と関わること」「規則正しく生活すること」「学ぶこと」の4因子構成が妥当であり、父のしつけへの実際の関わりには子どもの年齢が、母のしつけへの実際の関わりには母の年齢、就業の有無および子どもの年齢が関連していることが示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能（アンケート回収後の分析および論文作成） 共同発表者：山本（松井）菜摘、加藤多樹郎、藤原千恵子
2. 小児の入院と母親の付き添いがきょうだいに与える影響 ～きょうだいの情緒と行動の問題の程度と前向きな変化・成長の関係～（査読付き）	共	2010年3月	第40回日本看護学会論文集 小児看護、P.87-89	母親の属性および小児の入院と母親の付き添いによって生じるきょうだいの情緒・行動の問題の程度と、前向きな変化・成長の関係を明らかにすることを目的として、小児の入院に終日付き添っている母親を対象に質問紙調査を行った。母親の年齢や不安の程度、きょうだいの年齢や性別に配慮したきょうだい支援の必要性が示された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共著者名：倉橋理香、新家一輝、泉美香、山田晃子

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
3. 病棟の違いによる入院児のきょうだい支援に対する看護師の認識と実践の差異（査読付き）	共	2010年3月	第40回日本看護学会論文集 小児看護、P.93-95	、山本（松井）菜摘、武内紗千、河上智香、石井京子、藤原千恵子 小児が入院する病棟に勤務する看護師を対象に、病棟により入院児のきょうだい支援に対する認識と実践に差異があるかを分析した。きょうだい支援に関する情報収集や働きかけは小児病棟と混合病棟のどちらでも高く認識して実践されていること、院内規則や設備によってきょうだい支援の違いが生じる可能性があることが示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共著者名：武内紗千、河上智香、新家一輝、倉橋理香、泉美香、山田晃子、山本（松井）菜摘、石井京子、藤原千恵子
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 幼児後期の子どもを持つ父母における養育態度とその要因		2012年3月	第27回日本看護研究会近畿地方会学術集会（大阪）	地域で生活する幼児後期の子どもを持つ父母の養育態度と、その属性や相談による違いを明らかにすることを目的に、父母の養育態度の組み合わせを4つに分類し、背景要因による関連を分析した。子どもの数や夫婦間の相談、祖父母の同居等が父母の養育態度に影響を及ぼしている可能性があると考えられる。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能（アンケート回収後の分析および抄録作成） 共同発表者：山本（松井）菜摘、藤原千恵子
2. 幼児後期の子どもを持つ親におけるしつけへの実際の関わり		2011年8月	第42回日本看護学会地域看護（高松）	幼児後期の子どもを持つ親のしつけに対する実際の関わりと、その属性および相談状況による違いを明らかにするため、地域で生活する幼児後期の子どもを持つ親を対象として質問紙調査を行った。しつけへの実際の関わりは「決まりを守ること」「人と関わること」「規則正しく生活すること」「学ぶこと」の4因子構成が妥当であり、父のしつけへの実際の関わりには子どもの年齢が、母のしつけへの実際の関わりには母の年齢、就業の有無および子どもの年齢が関連していることが示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能（アンケート回収後の分析および抄録作成） 共同発表者：山本（松井）菜摘、加藤多樹郎、藤原千恵子
3. 小児の入院と母親の付き添いがきょうだいにおよぼす影響～きょうだいの情緒と行動の問題の程度と前向きな変化・成長の関係～		2009年9月	第40回日本看護学会小児看護（高知）	母親の属性および小児の入院と母親の付き添いによって生じるきょうだいの情緒・行動の問題の程度と、前向きな変化・成長の関係を明らかにすることを目的として、小児の入院に終日付き添っている母親を対象に質問紙調査を行った。母親の年齢や不安の程度、きょうだいの年齢や性別に配慮したきょうだい支援の必要性が示された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：倉橋理香、新家一輝、泉美香、山田晃子、山本（松井）菜摘、武内紗千、河上智香、石井京子、藤原千恵子
4. 小児の入院と母親の付き添いによる、きょうだいの肯定的な変化の程度と属性・背景因子との関連性		2009年9月	第16回日本家族看護学会（岐阜）	小児の入院と母親の付き添いによる、きょうだいの肯定的な変化の程度と、属性・背景因子との関連性を分析するため、小児の入院に終日付き添っている母親を対象に質問紙調査を行った。きょうだいは頑張り過ぎていて場合に肯定的な変化を示す可能性があるため、きょうだいが母親に十分に関わる機会が増えるよう配慮することが重要であると考えられる。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：山田晃子、新家一輝、泉美香、倉橋理香、山本（松井）菜摘、武内紗千、河上智香、石井京子、藤原千恵子
5. 入院児のきょうだいの人格的成長尺度の作成		2009年9月	第16回日本家族看護学会（高山）	小児の入院と母親の付き添いにより生じる、入院児のきょうだいの肯定的な変化の程度を測定している尺度を作成することを目的に、小児の入院に終日付き添っている母親を対象に質問紙調査を行った。愛他的行動因子、情緒・社会的スキルの発達因子、セルフコントロール因子の3因子から成る「入院児のきょうだいの人格的成長尺度」の有用性が示された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：新家一輝、藤原千恵子、石井京子、河

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
<p>6. 病棟の違いによる入院児のきょうだい支援に対する看護師の認識と実践の差異</p> <p>7. 幼児後期の子どもを持つ親のしつけに対する意識と実際の関わり—母親の属性・しつけ体験による認識の差異—</p>		<p>2009年9月</p> <p>2009年10月</p>	<p>第40回日本看護学会小児看護（高知）</p> <p>第56回日本小児保健学会（大阪）</p>	<p>上智香、泉美香、山田晃子、倉橋理香、武内紗千、山本（松井）菜摘</p> <p>小児が入院する病棟に勤務する看護師を対象に、病棟により入院児のきょうだい支援に対する認識と実践に差異があるかを分析した。きょうだい支援に関する情報収集や働きかけは小児病棟と混合病棟のどちらでも高く認識して実践されていること、院内規則や設備によってきょうだい支援の違いが生じる可能性があることが示唆された。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能</p> <p>共同発表者：武内紗千、河上智香、新家一輝、倉橋理香、泉美香、山田晃子、山本（松井）菜摘、石井京子、藤原千恵子</p> <p>地域で生活する3～6歳の子どもを持つ母親を対象として、養育態度としつけの必要性および実際の関わり、また様々な背景要因によるそれらの違いを明らかにすることを目的に質問紙調査を行った。母親は愛情豊かに適度な距離を保ちつつ、親としての責任を持って育児に取り組み、基本的な生活習慣よりも社会的な生活習慣を大切にしている傾向が見られた。配偶者や親と相談することで母親が余裕を持てしつけができ、また親から受けたしつけが自分の子どもに対するしつけに反映されていることが示された。</p> <p>本人担当部分：父母に対して質問紙調査を実施し、回収後に母親のみの分析を担当。</p> <p>共同発表者：山本（松井）菜摘、西川麻菜美、加藤多樹郎、藤原千恵子</p>
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				
年月日		事項		